



- 自学・自立
- 思いやり・感謝
- 鍛錬

「歓喜の歌」とともに「命」を考えるー今年もお世話になりましたー

校長 辻 成一郎

激動の1年が終わろうとしています。今年は、新型コロナウイルスと東京オリンピック・パラリンピックで明け暮れた年でした。開催の是非が議論されましたが、選手たちは、開催されたことに感謝し、無観客の中でも、最高のパフォーマンスをめざしてがんばりました。どの競技でも、感動のドラマが生まれ、メダルラッシュに国中が沸きました。

しかし、その陰で、コロナウイルスに生活や生きる夢をむしばまれ、苦しんでいる人たちがいます。

先日、1年生を対象に行った、「いのちの授業」の感想の中で、次のようなものがありました。

『本日は、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。私が今、生きていること、そして、今、私のとなりに友達がいること、すべてが奇跡のようなことなんだと感じました。』

この命を、自らの手でにぎりつぶすようなことは、絶対にしてはいけないと思ったし、自分自身が1つでも多くの命を救えるような人になりたいと思いました。家に帰ってから、改めて、自分のことを命がけで生んでくれた母に感謝の気持ちを伝えようと思います。』

他にも、多くの生徒たちの感想の中に、自らの生き方やあり方を自分で決められることや、自分の感じ方は自分だけのもので、他の人とは、同意を求めて共通点を探り、違いを認め合っていくことが、大切なのだと書かれていました。しっかりした自己決定や同意の上で、生きていかななくてはならないのだと感じたようです。

また、赤ちゃんが生まれるまでの奇跡と苦難を知り、それでも自分たちを生んでくれたことへの感謝を綴っている生徒も多くいました。

生まれてきたこと、生きていくことを、苦難と感じるか、チャンスを与えられたと感じるかは、人それぞれです。

年末至る所で演奏される「第九」、ベートーベンの「交響曲第9番」の最後の第4楽章は、「歓喜の歌」と呼ばれ、独唱や合唱が入ります。オーケストラと歌が競い合う交響曲は、この「第九」が最初でした。この曲を、耳も聞こえなくなる中、ベートー

ーベンは12年かかって作り上げたと言われていいます。そして、この曲は、彼が最後に作った交響曲になりました。

その「歓喜の歌」の最後に近い一節は、ある本では以下のように訳されています。

喜びをもとう、太陽が華やかな空を飛ぶように

走れ、兄弟よ、あなたたちの道を

喜びを持って、英雄のように勝利に向かって

身分を越えたすべての人々の生きる喜びを認める歌として、ベートーベンはこの曲を作りました。そして、200年の時を越えて、今も人々に生きる勇気を与える曲として、演奏され、歌い継がれています。

新しい年を迎えます。コロナ禍での苦労は続きますが、たった一つの命を、どう輝かせて生きていくかは、自分だけが決められることです。だれもが、生きている喜びをかみしめ、人と出会う奇跡に感謝し、関わり合ったすべての人との違いを認め合いながら、自らの手で、どのように、自らの命を、人生を、輝かせていくのかを考え、自らの道を自らの方法で胸を張って歩いていきたいものです。我々も、そのお手伝いができる、地域に根差す学校をめざしていきます。

今年一年間、お世話になった、学校運営協議会や学校支援本部をはじめとする地域の方々、教育委員会をはじめとする杉並区役所や済美教育センターの方々、そして、様々な面でご協力いただいた保護者の皆様に、改めて感謝申し上げますとともに、新年に向けて、変わらぬご理解、ご協力をお願いいたします。良いお年をお迎えください。

追伸：元震災救援所運営連絡会会長で、新校舎建設などにも関わられた学校支援本部の橋本 勝久さんが、12月3日に、お亡くなりになりました。その長年のご活躍に敬意を表するとともに、謹んでお悔やみを申し上げます。

教育活動の紹介

学校図書館主催クリスマスお話し会(12/14 実施)

12月14日(火)昼休みに図書委員会の恒例企画「クリスマスおはなし会」を開催し、冬にお勧めの本3冊(『幸福の王子』『世界で一番の贈り物』『最近、地球が暑くてクマってます。』)の紹介と、絵本『ピロードのうさぎ』の読み聞かせをしました。読み聞かせでは図書委員の生徒が役を分担し、絵はパワーポイントで見せました。たくさんの生徒が聞きに来て、しっとりと絵本の世界に浸ったお昼のひと時でした。

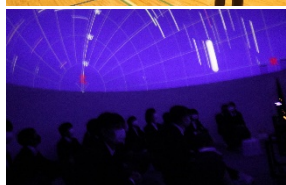


1年生「いのちの授業」(12/16 実施)

1年生の「いのちの授業」はNPO法人ピッコラーの中島かおりさんから「奇跡のようないのち大切なわたし」と題してお話を伺いました。胎児や赤ちゃんを模した人形を生徒一人一人が触ったり、代表生徒が妊婦体験のベストを着たりする体験も交えて、「同意」「命」「性」について具体的にお話いただきました。生徒は、自分の体のことは自分で決めることやいのちの始まりについてじっくりと考え、その大切さを実感していました。



3年生理科出前授業(12/21 実施)



本来ならば11月に実施予定だった済美教育センターからの理科出前授業「プラネタリウム」が、12月21日に本校アリーナで行われました。アリーナ内に設置されたプラネタリウムに恐る恐る入る3年生でしたが、内部では幻想的な世界が広がり、星の観察を楽しんでいました。

令和3年度「国際交流の集い」(12/18 実施)

杉並区交流協会主催の「国際交流の集い」が18日、久我山会館で行われました。松溪中学校から1年生2名がスピーチプログラムに参加しました。



イチヤさんは「今、私が考えていること」、リカくんは「日本の中学校生活」というタイトルでスピーチを披露してくれました。日頃の日本語の勉強の成果が出ていました。立派な姿に会場は感動に包まれていました。

部活動の結果

■ソフトテニス部
(冬季学年別研修大会)

栗原愛実(1年)、廣田 詩(1年)ペア…ベスト4(3位以上決定)
12月25日(土)準決勝戦、決勝戦実施予定

学校運営協議会(12/13 実施)

毎月1回、学校運営協議会(CS)委員の方が集まり、松溪中学校の活動について、話し合いが行われています。

12月13日の会議では、「不登校・特別支援」に関する情報提供と「杉並区教育ビジョン2022」が話題になりました。

次回は1月17日(月)に開催されます。



三校合同挨拶運動(12/22)

西田小学校と桃井第二小学校の2校と合同挨拶運動を行いました。

松溪中学校の生徒会役員が、朝それぞれの小学校に出向き、登校してくる児童に元氣よく挨拶を行っていました。

コロナ禍において、小中の連携がなかなかできませんでしたが、今後は感染予防を徹底しながら、小中連携を強化していきます。

